

令和 7 年度 再々々評価調書

1 事業概要

事業名	服部緑地整備事業	
担当部署	都市整備部都市計画室公園課公園整備グループ（連絡先 06－6944－9314）	
事業箇所	・豊中市東泉丘他 ・吹田市春日他	
再々々評価理由	再々評価実施から 5 年を経過した時点で継続中	
事業目的	服部緑地は、昭和 16 年に久宝寺、大泉、鶴見の各緑地とともに大阪都市計画緑地として計画決定された大阪四大緑地の一つである。「豊かな緑と一体で大阪の賑わいを創出する拠点となる公園」として、大阪の顔となり地域の安全安心を支え、魅力づくりに貢献する公園を目指して整備を行っている。豊中市と吹田市にまたがり、千里丘陵の西端に位置する北大阪地域の環境・景観の保全やレクリエーションの拠点となっている。 当緑地は、天然の竹藪、松林と大小 10 数個の池によって代表される自然環境豊かな公園であり、未整備地も竹林とその景観が残されているが、近年周辺地域の急速な開発が進む中、未整備地の整備の必要性が高まっている。 今回の整備により、既存竹林を保全し、千里丘陵へとつなぐネットワークの形成を図り、地域の環境・景観の保全やレクリエーション機能の充実、自然環境との共生フィールドの醸成、さらには防災公園としての機能充実を行うものである。	
事業内容	・都市計画決定面積 138.4ha ・開設済面積 126.3ha（令和 6 年度末） ・未開設区域面積 12.1ha ・事業中区域面積 7.6ha （事業中区域の主な整備予定施設） 散策園路、竹の散策見本園、自然観察ゾーン （開設済区域の主要な施設） 円形花壇、こどもの楽園、ちかくの森、陸上競技場、プール、野球場、乗馬センター、テニスコート、都市緑化植物園、民家集落博物館、野外音楽堂、レストラン	
事業費 （ ）内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費：約 304.3 億円（約 298.9 億円）〔国： 124.2 億円、府： 180.1 億円〕	
	（内訳）用地費 約 165.4 億円（約 165.4 億円） 工事費 約 138.9 億円（約 133.5 億円）	【工事費の内訳】 ・造成費 約 27.8 億円（約 26.7 億円） ・建設費 約 111.1 億円（約 106.8 億円）
	事業中区域事業費：約 123.7 億円（約 119.1 億円）〔国： 42.8 億円、府： 80.9 億円〕	
	（内訳）用地費 約 110.4 億円（約 110.4 億円） 工事費 約 13.3 億円（約 8.7 億円）	【工事費の内訳】 ・造成費 0.3 億円（約 0.2 億円） ・建設費 13.0 億円（約 8.5 億円）
事業費の変更理由	・工事費の物価変動	
維持管理費	約 246 百万円／年（令和 6 年度指定管理料、未開設地管理費用）	

	事前評価時点 H17	再評価時点 H27	再々評価時点 R2	再々々評価時点 R7	変動要因の 分析
事業を巡る社会 経済情勢 等の変化	開設面積 126.3ha	開設済面積126.3ha ・H18 指定管理者制度の導入 ・財政再建プログラム案 (H20～H23) 及びその後の財政構造改革による事業費の圧縮 ・東日本大震災を契機として、想定外地震への対応と都市防災の重要性が高まる。	開設済面積126.3ha ・緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限引き出すことを重視する新たなステージに移行。	開設済面積126.3ha ・新たな指定管理者との協働による魅力向上事業(ハード、ソフト)の展開	指定管理者の交代
地元の 協力体制 等	○服部緑地において定期的に活動しているボランティア団体は現在8団体あり、服部緑地の特性を活かして独自の活動を行っている。 【主な団体と活動内容】 「竹レンジャー」 都市緑化植物園で始まったボランティア団体で、竹林を対象として竹林の管理や竹炭づくり、竹を使ったクラブなど、月2～3回様々な活動を行っている。 「服部緑地自然を育てる会」 服部緑地の生きもののふれあいをテーマとし設立された団体で、公園の管理や管理手法に関する提案や、湿地の再生、水環境の回復、昆虫の集まる草地管理など、月2回の様々な活動を行っている。	○服部緑地において定期的に活動しているボランティア団体は現在13団体あり、服部緑地の特性を活かして独自の活動を行っている。 【主な団体と活動内容】 「竹レンジャー」 ・竹林管理や工作教室の実施 「この指たかれ」 ・植物園内の樹木・草花の案内 「服部緑地都市緑化植物園友の会」 ・ハーブ園の案内、講習会の実施 ○指定管理者の発案により、地域の関係団体で構成する「みどり文化地域を育てる協議会」を設置。公園の利用促進をきっかけとした地域活性化を目的に様々な連携イベントや広報発信等を実施している。 H26実績：約200件のイベントを実施	○服部緑地において定期的に活動しているボランティア団体は現在13団体あり、服部緑地の特性を活かして独自の活動を行っている。 【主な団体と活動内容】 「バンブークラブ」 「小路小学校おやじの会」 「サンヴェール竹林整備会」 ・竹林管理などの実施 「この指たかれ」 ・植物園内の樹木・草花の案内 「服部緑地都市緑化植物園友の会」 ・ハーブ園の案内、講習会の実施 ○地域の関係団体で構成する「みどり文化地域を育てる協議会」を継続開催し、地域活性化を目的に様々な連携イベントや広報発信等を実施している。 R1 実績：新型コロナウイルス感染防止のため一部取りやめがあったが、約170件のイベントを実施	○服部緑地において定期的に活動しているボランティア団体は現在7団体あり、服部緑地の特性を活かして独自の活動を行っている。 【主な団体と活動内容】 「バンブークラブ」 ・竹林管理などの実施 「この指たかれ」 ・植物園内の樹木・草花の案内 「服部緑地都市緑化植物園友の会」 ・ハーブ園の案内、講習会の実施 「こどもゆめくらぶ服部教室」 「服部緑地自然を楽しむ会」 「服部緑地ファミリー自然教室」 ・自然観察・自然工作・体験学習 「天竺の原っぱで遊ぼう会」 ・遊びの見守り・サポート ○新たな指定管理者との協働により、「～多様な人と自然がつながるサードプレイス～ 心・体・社会が元気になる公園 Hattori Well being Park」を管理運営理念とし、ハード・ソフト両面から様々な魅力向上事業を展開している。 R5 実績：約160件のイベントを実施	特になし

	事前評価時点 H17	再評価時点 H27	再々評価時点 R2	再々々評価時点 R7	変動要因の 分析
事業の投資 効果 ＜費用便益 分析＞ または ＜代替指標 ＞	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ○事業全体 ・B/C =4.21 B=2,231.8 億円 C=529.8 億円 【算出方法】 ・直接利用効果 健康・心理的なう るおい・レクリエ ーション空間の 提供 ・間接利用効果 都市環境維持・改 善 都市景観の保全提 供 都市防災機能の確 保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民 ※改訂 大規模 公園費用対効果 分析手法マニユ アル (H16.2 発行 国 土交通省都市 部・地域整備局公 園緑地課監修)	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ○事業全体 ・B/C =4.06 B =1,966.8 億円 C=483.9 億円 ○残事業 ・B/C =1.24 B=1,173(百万円) C= 949(百万円) 【算出方法】 ・直接利用効果 健康・心理的なう るおい・レクリエ ーション空間の 提供 ・間接利用効果 都市環境維持・改 善 都市景観の保全提 供 都市防災機能の確 保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民 ※改訂第3版 大 規模公園費用対 効果分析手法マ ニユアル (H25.10 発行 国土交通省都市 局公園緑地・景観 課監修)	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ○事業全体 ・B/C =4.04 B= 2,351 億円 C= 581.5 億円 ○残事業 ・B/C =1.58 B=3,545(百万円) C=2,248(百万円) 【算出方法】 ・直接利用効果 健康・心理的なう るおい・レクリエ ーション空間の 提供 ・間接利用効果 都市環境維持・改 善 都市景観の保全 提供 都市防災機能の 確保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民 ※改訂第4版 大 規模公園費用対 効果分析手法マ ニユアル (H30.8改訂 国 土交通省都市 部・地域整備局公 園緑地課監修)	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ○事業全体 ・B/C =4.65 B= 1,879 億円 C= 403.8 億円 ○残事業 ・B/C =4.12 B=16,958(百万円) C=4,114(百万円) 【算出方法】 ・直接利用効果 健康・心理的なう るおい・レクリエ ーション空間の 提供 ・間接利用効果 都市環境維持・改 善 都市景観の保全 提供 都市防災機能の 確保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民 ※改訂第4版 大 規模公園費用対 効果分析手法マ ニユアル (R6.3改訂 国土 交通省都市部・地 域整備局公園緑 地課監修)	・費用対効果 分析手法マ ニユアルの 改訂（令和 6年3月）
事業効果の 定性的分析 （安心・安 全、活力、 快適性等の 有効性）	【効果項目】 都市環境維持・改 善 都市景観の保全 提供 都市防災機能の 確保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民	【効果項目】 都市環境維持・改 善 都市景観の保全 提供 都市防災機能の 確保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民	【効果項目】 都市環境維持・改 善 都市景観の保全 提供 都市防災機能の 確保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民	【効果項目】 都市環境維持・改 善 都市景観の保全 提供 都市防災機能の 確保 【受益者】 公園利用者、周辺 住民	特になし

	事前評価時点 H17	再評価時点 H27	再々評価時点 R2	再々々評価時点 R7	変動要因の 分析
事業の進捗状況 ＜経過＞ ① 事業採択年度 ② 事業着工年度 ③ 完成予定年度	【認可予定区域 (11.0ha)】 ① 平成 18 年度 ② 平成 18 年度 ③ 平成 24 年度	【認可区域 (7.6ha)】 ① 平成 18 年度 ② 平成 18 年度 ③ 平成 34 年度	【事業中区域 (7.6ha)】 ① 平成 18 年度 ② 平成 18 年度 ③ 令和 9 年度	【事業中区域 (7.6ha)】 ① 平成 18 年度 ② 平成 18 年度 ③ 令和 17 年度	・公共事業費の縮減
＜進捗状況＞	【認可予定区域 (11.0ha)】 全体 11% (9.6 億円/88.0 億円) 用地 13% (9.6 億円/77.0 億円) 工事 0% (0 億円/11.0 億円) 【全体 (参考)】 全体 63% (148 億円/236 億円) 用地 25% (25.5 億円/102.5 億円) 工事 92% (122.5 億円/133.5 億円)	【認可区域 (7.6ha)】 全体 67% (19.0 億円/28.5 億円) 用地 91% (19.0 億円/20.9 億円) 工事 0% (0 億円/7.6 億円) 【全体 (参考)】 全体 75% (164.1 億円/218.1 億円) 用地 51% (44.5 億円/86.4 億円) 工事 91% (119.6 億円/131.7 億円)	【事業中区域 (7.6ha)】 全体 91.0% (108.4 億円/119.1 億円) 用地 98.2% (108.4 億円/110.4 億円) 工事 0% (0 億円/8.7 億円) 【全体 (参考)】 全体 85.6% (256 億円/298.9 億円) 用地 82.5% (136.4 億円/165.4 億円) 工事 90.0% (119.6 億円/133.5 億円)	【事業中区域 (7.6ha)】 全体 87.6% (108.4 億円/123.7 億円) 用地 98.2% (108.4 億円/110.4 億円) 工事 0% (0 億円/13.3 億円) 【全体 (参考)】 全体 84.1% (256.0 億円/304.3 億円) 用地 82.5% (136.4 億円/165.4 億円) 工事 86.1% (119.6 億円/138.9 億円)	
事業の必要性等に関する視点	・豊中市と吹田市にまたがり、千里丘陵の西端に位置する北大阪地域の環境・景観の保全やレクリエーションの拠点として重要な役割を果たしている。事業中区域の周辺地域では、大規模マンション建設等の急速な宅地開発が進んでいるため、竹林の適正管理を図ることにより景観や環境を保全・活用することが必要である。 ・大阪府地域防災計画において後方支援活動拠点として位置付けられており、災害時の重要な防災拠点となっている。また豊中市、吹田市の地域防災計画において広域避難場所として位置づけられており、事業中区域の整備は、服部緑地の大空間へつながる避難通路として防災機能の拡充にも寄与する。				

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	・事業中区域の用地買収は、約 98.2%進捗している。(先行取得分を含む) ・先行取得した用地については、予算状況に応じて買戻しを行っている。 ・買い戻したエリアから順次工事に着手予定であり、令和 17 年度の事業中区域の完成を目指している。
--------------	---

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	【コスト縮減】 ・事業中区域における事業費の約 89.2%は用地費であり、そのうち約 98%は投資済みである。 ・竹林を保全・活用するため、施設整備は必要最小限としている。 ・工事費については、造成工事、植栽工事、排水、電気・給水等の施設工事など、公園事業として必要な基盤となる工事であるため、コスト縮減の余地はない。 【代替案立案】 ・対象地の竹林は、地域の貴重な緑資源であり、周辺の緑と併せて生態系ネットワークを形成している。 ・また、災害時に近隣住民の広域避難場所である服部緑地への避難路の役割を果たすものである。 ・これらを踏まえ、代替案立案の余地はない。
---------------------	--

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	千里丘陵を代表する景観である竹林を保全することにより、その美しい竹林景観を後世に残し伝え、また現況の竹やその他常緑広葉樹等により構成された樹林地を保全・活用することによって、林床環境の改善を行い、生物多様性に資する良好な樹林を形成し、生きものにとって棲みやすい自然環境とし、人と生き物・植物とのふれあいの場を確保する。
前回評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	-
上位計画等	【上位計画】 ・みどりの大阪推進計画（H21.12） ・大阪府営公園マスタープラン（H31.3） ・服部緑地マネジメントプラン（案）（R2.4） ・大阪府都市基盤整備中期計画（R3.1） 【関連計画】 ・大阪府地域防災計画（R6.6）⇒平成9年～ 後方支援活動拠点として指定 ・豊中市地域防災計画（R3 改正）⇒昭和50年～ 広域避難地として指定 ・吹田市地域防災計画（R5 修正）⇒昭和57年～ 広域避難地として指定
その他特記事項	-

6 対応方針（原案）

対応方針（原案）	○事業継続 <判断の理由> ・周辺地域の急速な大規模マンション等の宅地開発に伴い、未整備地の貴重な竹林などの自然環境が失われており、これらの地域環境や景観の保全・活用のためには、事業継続が必要である。 ・大阪府地域防災計画においては、後方支援活動拠点として位置付けられており、災害時の重要な防災拠点となっている。 また、豊中市及び吹田市の地域防災計画においても広域避難場所として位置づけられており、事業中区域において安全な避難路の確保を行うことは、防災機能の充実に資する取組である。 ・事業中区域の用地買収は約 98%進捗しており、令和 17 年度の事業中区域の完成を見込んでいる。 以上の理由から、事業を継続する。
----------	---